



## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和4年1月19日

協議会名:	鹿部町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金、公有民営方式車両購入費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>鹿部町は、北海道南部の渡島半島東部に位置し、駒ヶ岳山麓の一角に広がる噴火湾に面した1年を通じて温暖な町で、総面積は110.63km、人口は令和4年1月現在で3,721人となっている。</p> <p>近年では、町内におけるバス利用の低迷や少子高齢化、人口減少の進行等、状況は変化しているほか、令和3年度には鹿部町役場が移転をし、町民の移動状況にも影響が出ている。これらの状況に対応し、町民をはじめとする町内公共交通利用者のよりよい交通サービスの提供を行うことを目的に、町内移動・広域移動に係る生活交通の確保を行うこと、併せて広域交通と町内交通間の利便制向上策の実施による観光客需要の取り込みも視野に入れた「鹿部町地域公共交通網形成計画」を策定している。この計画に基づき、令和3年5月から「鹿部駅線」を再編し、利用者の意見を取り入れながら、運行内容の見直しを実施している。「鹿部駅線」はJRIに接続する他、町内の生活移動の手段となっており、地域公共交通確保維持事業により将来に渡り安定して確保・維持することが必要である。</p>

# 鹿部町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

## 事業実施の目的・必要性

町内公共交通利用者のよりよい交通サービスの提供を行うことを目的に、町内移動・広域移動に係る生活交通の確保、観光客需要の取り込みも視野に入れた、「鹿部町地域公共交通網形成計画」を令和2年3月に策定した。この計画に基づき、令和3年5月から「鹿部駅線」を再編し、利用者の意見を取り入れながら、運行内容の見直しを実施している。「鹿部駅線」はJRに接続する他、町内の生活移動の手段となっており、地域公共交通確保維持事業により将来に渡り安定して確保・維持することが必要である。

## 生活交通確保維持改善計画の目標

鹿部駅線の日利用者数を1日平均22人以上とする。  
小型ノンステップバスの導入により、高齢者をはじめとした足腰の弱い方も利用しやすい公共交通となり、鹿部駅線を利用した町内移動のほか、JRへ乗り継いで函館市・森町方面への広域移動も確保される。また、きめ細やかなルートになることで、観光客の町内周遊手段にも活用が見込まれ、地域活性化につながる。

## 令和3年度事業概要

運行系統名：鹿部駅線、 運行区間：鹿部出張所～宮浜～鹿部駅前  
運行回数：858回 運賃：310,142円  
【公有民営方式車両購入費国庫補助】

## 地域公共交通の現況

- ・JR函館本線(鹿部駅)
- ・函館バス(株)(町内4路線6系統)

## 協議会開催状況

令和2年7月27日 令和2年度第1回協議会を開催  
主な協議事項：地域公共交通運行計画案について  
令和2年12月7日 令和2年度第2回協議会を開催  
主な協議事項：地域公共交通運行計画案の一部変更  
令和3年2月26日 令和2年度第3回協議会を開催(書面)  
主な協議内容：地域公共交通運行計画案  
令和3年6月15日 令和3年度第1回協議会を開催(書面)  
主な協議内容：デマンド運行、フィーダー計画認定申請について  
令和3年10月28日 令和3年度第2回協議会を開催  
主な協議内容：デマンド交通について、タクシー営業区域外旅客運送について  
令和4年1月19日 令和3年度第3回協議会を開催(書面)  
主な協議内容：地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価、鹿部駅線運行内容の一部変更について

1) プロセス、創意工夫

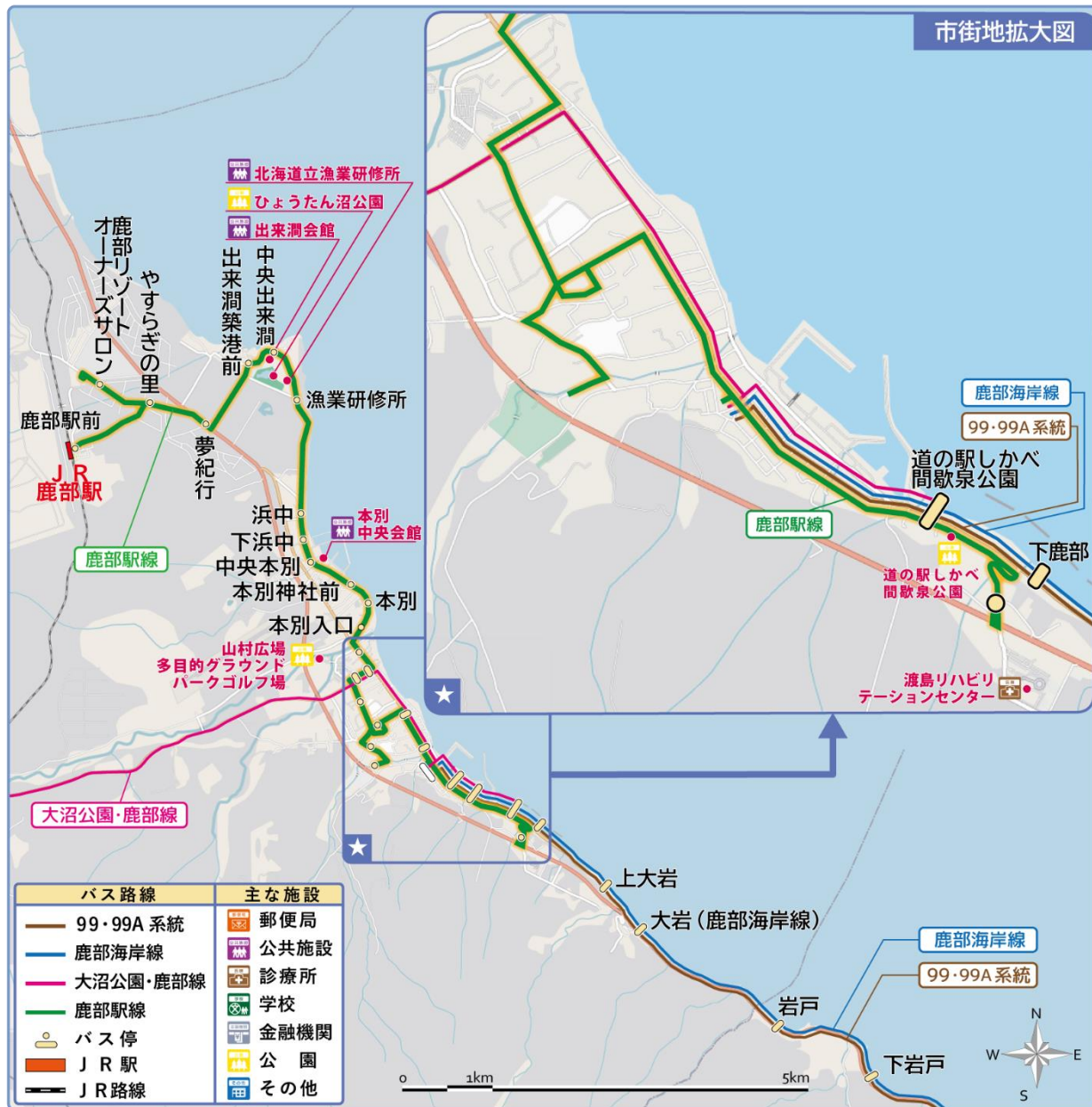
「プロセス」

- ・令和元年から町直営コミュニティバスの実証運行を実施
- ・地域公共交通利用者会議及び地域公共交通活性化協議会で協議をし、路線バスを再編、再編後のバスマップを作成、全戸配布した。
- ・路線バス用小型ノンステップバス購入

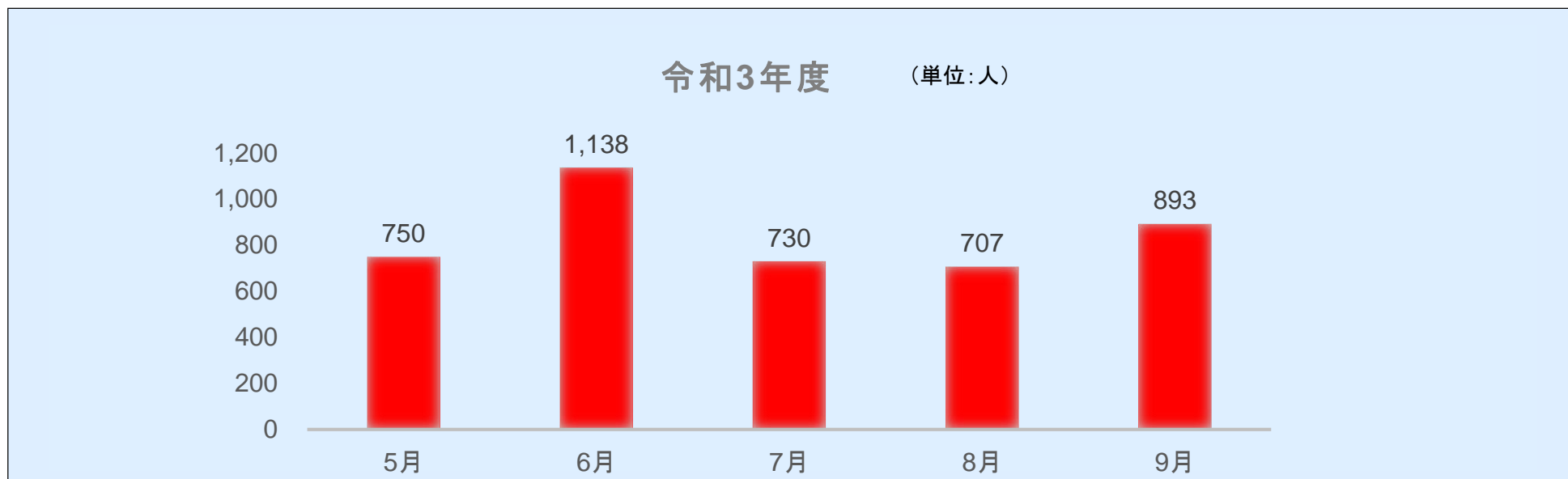
「創意工夫」

- ・地域公共交通確保維持改善事業費補助金及び公有民営方式車両購入費国庫補助金の活用
- ・町直営コミュニティバスの実証運行及び地域公共交通利用者会議及び地域公共交通活性化協議会の意見、各種アンケートの結果を参考に路線バスを再編
- ・路線バスの再編について、通学や町民ニーズ（各施設への立ち寄り）に即した運行ルート、週3日交通空白時間帯であった日中の便を追加、コミュニティ化したルートを実行可能な小型バスの購入、運賃の再設定を実施。
- ・バス車内モニターへの町PR動画投影、新型コロナウイルス対応の光触媒による車内コーティング、車内への無料Wi-Fi搭載

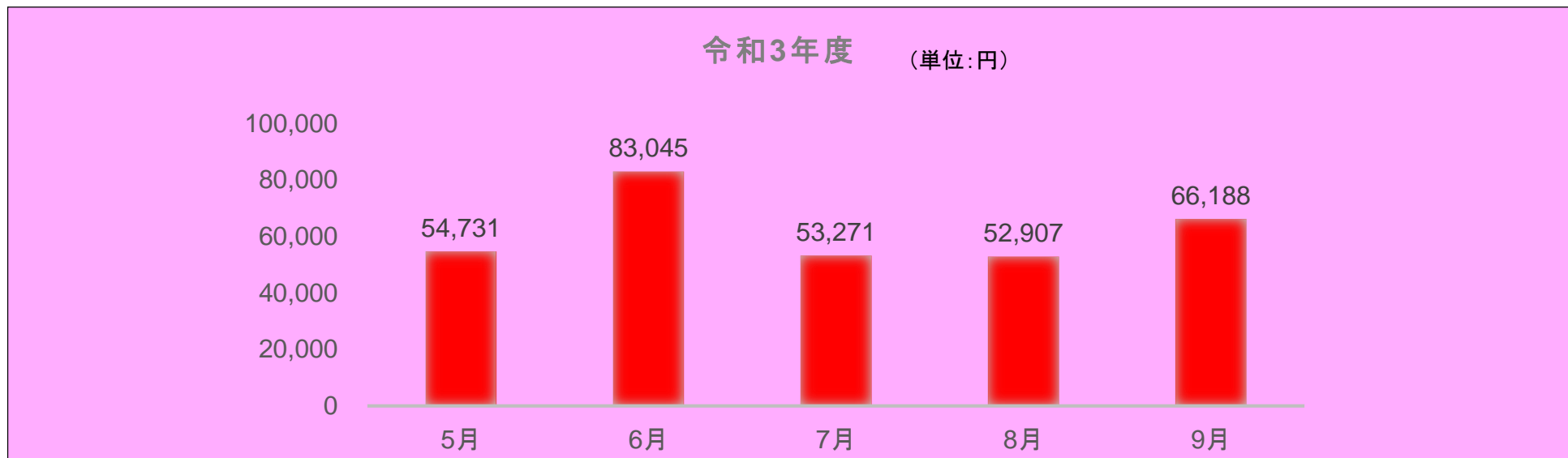
2) 運行系統



### 3) 利用実績



### 4) 収入実績



## 5) 事業実施の適切性

- ・通学・通勤を支えるバス交通の確保については、通学児童の保護者の意見等を反映し、通学に利用しやすい時刻表に修正した。また、通学用定期の設定を実施した。
- ・町内交通、広域交通間の接続性を確保した路線バス再編を実施した。
- ・町内交通、広域交通や乗車方法を記載した公共交通マップを作成し、全戸配布した。
- ・ICカード対応の小型バスを購入した。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、バスの乗り方教室が未実施となった。

## 6) 目標・効果達成状況

- ・路線バスについて、停留所を学校付近に移動し、運賃設定を一律100円(小学生は50円)と見直したことに伴い、小学生の利用が増加、路線のコミュニティ化や、各施設を経由するルートへの変更、空白時間帯の日中の便を追加したことから利用者が増加し、目標の日利用者数を達成できた。
- ・車両取得により、年間修繕費が半分程度に抑えられている。燃費に関しては、5月から12月で月平均1.3K/L程度改善されている。
- ・車両を小型化したことにより、各施設を経由する運行ルートに対応できた。
- ・小型バスを活用したバスの乗り方教室については、新型コロナウイルスの感染症の影響により未実施となった。
- ・公共交通利用者会議等で意見聴取し、利用者ニーズに即した運行計画の見直しを実施した。

## 7) 事業の今後の改善点

- ・公共交通利用者会議等で意見聴取し、利用者のニーズにあわせた時刻表の見直しを実施する。
- ・小学生を対象とした乗り方教室の実施や、路線バスを利用した移動例を周知し、利用者の拡大を図る。
- ・路線バスの利用者が少ない便について、変更や減便を検討する。

## 8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄